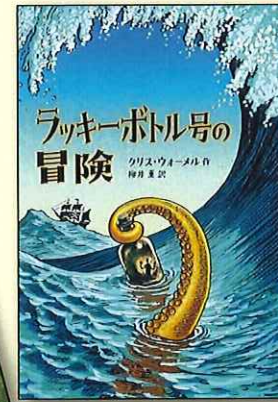


よんでみましよう 2025



文京区立図書館

はじめに

文京区立図書館で子どもの本のしごとをしている人が、
おすすめするおもしろい本をえらびました。学年別にわけ
てありますが、それにこだわらずに読んでみてください。
ここでしょうかいしている本は、ぜんぶ図書館に複数用意
してあります。貸出中の本は予約をすることができます。

このほかにも図書館にはたくさん本がありますので、気
軽に図書館の人に相談してください。ひとりでも多くの人
が心から楽しめる本とであえることをねがっています。



もくじ

1・2年生むき	1
3・4年生むき	6
5・6年生むき	9



あか
『赤いめんどり』

9Bア/E

アリソン・アトリー 作
青木 由紀子 訳
山内 ふじ江 絵

(福音館書店)

ひとりでさびしくくらすおばあさんのいえに、赤いめんどりがやってきます。ふたりは、たのしくくらしはじめますが、ある日、めんどりがさらわれてしまいます。めんどりは、大すきなおばあさんのもとへ、かえれるのでしょうか。



にん
『ウォーリーと16人のギャング』

9Bケ

リチャード・ケネディ 文
マーク・シーモント 絵
小宮 由 訳

(大日本図書)

ある日、ギャングの hogboon とそのなかまたちが小さな町にのりこみ、大人たちはこわがってしずまりかえってしまいます。そのとき、ちびっこウォーリーはかけっこやはしごのほりなどでどうどうとしょうぶにいどみます。



むかしばなし
『かものむすめ ウクライナの昔話』
／ウクライナ民話』

Eミンワ

オリガ・ヤクトーヴィチ 再話・絵
松谷 さやか 訳

(福音館書店)

おじいさんとおばあさんは森で見つけたきれいなかもをつれてかえります。するとでけるたびに、へやがかたづき、りょうりもできていました。ふたりはたしかめようと、でけるふりをして、かげからのぞいていました。



『くしきのしか』

Eミンワ

リン・シュウスイ 文
リャオ・ジャンホン 絵
宝迫 典子 訳

(廣済堂あかつき)

おう王ひのめいれいで森^{もり}に出^でかけたやく草^{そう}とりの男^{おとこ}は、かがやくシカにあいました。うつくしいすがたに見^みとれた男^{おとこ}は川^{かわ}へおちてしまいます。男^{おとこ}をたすけたシカは、じぶんのことをだれにもいわないというやくそくをさせます。



『シロツメクサはともだち』 4ショクブツ

(ブロンズ新社)

シロツメクサはだれでもしっている、みちばたの白^{しろ}い花^{はな}です。1つのまあるい花^{はな}に見えませんが、じつはたくさんのほそながい花^{はな}があつまってできています。花^{はな}だけでなく、たねやはっぱにあるひみつ^{みつ}も見^みていきましょう。



『ゾウのはなのあなは、どこまでつづいてるの?』 4ドウブツ

中山 信一 絵
高岡 昌江 文

(あすなろ書房)

ゾウははなを、においをかぐほかに、えさをたべることや、なかまとあいさつをすることなど、生きていくためにつづいています。ただながいだけではないのです。ゾウのはなの中^{なか}はどうなっているのでしょうか。



『だごだご ころころ』

Eミンワ

石黒 漢子 再話
梶山 俊夫 再話
梶山 俊夫 絵

(福音館書店)

ばあさんがころがっただんごをおいかけいくと、あな^{なか}の中にはたくさんのあか^{あか}おにがいいました。赤^{あか}おににたのまれ、ふしぎなしゃもじでだんごをつくりつづけたばあさんは、いえにかえりたくなり^だにげ出すことにしました。

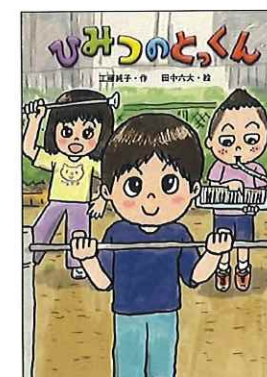


『ネコになりたかったクモのルイージ』 E

ミシェル・ヌードセン 作
ケビン・ホークス 絵
福本 友美子 訳

(岩崎書店)

けがもじゃもじゃの大きなクモが、すむところをさがしていました。みつけたのは、こネコがほしいとおもっていたおばさんのすむいえでした。そこでクモはこネコにまちがわれてしまい、こネコになりきってくらしはじめます。



『ひみつのとっくん』

9Aク

工藤 純子 作
田中 六大 絵

(金の星社)

さかあがり^{にん}がにがてな^{にん}はくは、ひとりであれんしゅうをはじめます。ある日、クラスの人気^{にん}もののぐっちゃんが、こっそりけんぱんハーモニカのれんしゅうをしているのを見^みかけ、いっしょにひみつのとっくんをすることになりました。



『^{だいこん}ふろふき大根のゆうべ』 9Aア
安房 直子 文
アヤ井 アキコ 絵 (あすなろ書房)

ひぐれの^{やま}山みち、もへいさんはみそをかいにいくという、ふしぎないのししにであいました。もっていた^{ほん}だいこんを1本わけてあげると、^{やま}山にすむいのししがひらく「ふろふきだいこんのゆうべ」にしようたいされました。



『ぼくのねこポー』 9Aイ
岩瀬 成子 作
松成 真理子 絵 (PHP研究所)

とおるは^{がっこう}学校からのかえりみちでみつけたねこに「ポー」となまえをつけてかいはじめました。ある^ひ日、てんこうせいの^{もり}森くんがかいねこをさがしているとします。それをきいたとおるは、むねがどきどきしはじめます。



『ほんとにともだち?』 9Aキ
如月 かずさ 作
高橋 和枝 絵 (小峰書店)

まあくんとたんくんは、いっしょにいてもべつべつにあそびます。ある^ひ日、まあくんはおねえちゃんに「ほんとにともだちなのか?」ときかれます。ふあんになります、おとうさんがともだちのかたちはひとつではないことをおしえてくれます。



『みどりいろのつりがね』 E
オトフリート・プロイスラー 作
ヘルベルト・ホルツィング 絵
武本 佳奈絵 訳 (好学社)

イワンという^{むらびと}村人のはたけからみどりいろのふしぎなつりがねができました。かねの^お音にはなやみをふきとばし、きぼうをあたえるふしぎな^{ちから}力がありました。うわさを^{みみ}耳にしたロシアのこうていは、つりがねを^{ごういん}ごういんにうばおうとします。



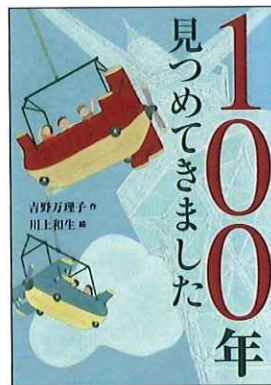
『物語 ^{ものがたり}王さまとかじや』 9Bフ
ジェイコブ・ブランク 文
ルイス・スロボドキン 絵
八木田 宜子 訳 (徳間書店)

まいにち^{だい}犬じんのいうとおりにする8さいの^{おう}王さまにある^ひ日じけんがおきます。かいけつしてくれたのは、^{おお}大きな^{むら}こえの村のかじやでした。^{おう}王さまはかじやといっしょに、ふたりだけでたのしくすごすことを^{おも}思いつきます。



『よるのあいだに…みんなをささえるはたらく^{ひと}人たち』 E
ポリー・フェイバー 文
ハリエット・ホブデイ 絵
中井 はるの 訳 (BL出版)

わたしたちがねているよるのあいだ、いろいろな^{ひと}人たちがしごとをしています。ビル^{ひと}のそうじをする人やけいさつかんなど、よるのあいだにみんなをささえるたいせつな^{ひと}しごとをしている人たちのようすをのぞいてみましょう。



『100年見つめてきました』 9Aヨ

吉野 万理子 作
川上 和生 絵 (講談社)

この本の語り手は奈良県の生駒山の遊園地に今もある、せのたかののりもの。もうすぐ100さいになるこの遊具は、日本で起きたうれしいことや悲しいこと、いろいろなものを見ています。どんなことを思っているのでしょうか。



『たい焼き総選挙』 9Aア

新井 けいこ 作
いちろう 絵 (あかね書房)

商店がいのたいやき屋さんのピンチに、拓都と同級生たちがおうえんにのりだしします。商売のむずかしさにぶつかりながら、食品ロスの問題や人気メニューのとう計に取り組んでみたり、次々と新しいことにちょうせんしていきます。



『机の下のウサギ』 9Aオ

岡田 淳 作 (偕成社)

ある日、一平が一人でるすばんをしていると、おじいちゃんのつくえの下からふしぎな草原へとまよいこんでしまいます。その先にいたしゃべる大きなウサギがなくした、はねる力をとりもどすための旅がはじまります。



『動物の義足やさん』

3サンギョウ/4ドウブツ/9ノンフィクション
沢田 俊子 文 (講談社)

島田さんは、体のふじゆうな動物たちがもう一度動けるようになるためのそう具を作っています。出来上がった後も、何度でも細かい調整に向かう島田さんの動物たちへのあいじょうがつたわるノンフィクションです。



『夏のサンタクロース』 9ブンコBス

アンニ・スヴァン 作
古市 真由美 訳
ルドルフ・コイヴ 絵 (岩波書店)

サンタクロースは、まものにブーツをうばわれて、プレゼントを配ることが出来ません。子どもたちは、森の生き物と力を合わせて、まものと立ち向かいます。フィンランドで「童話の女王」とよばれる作者の短ペン集です。



『バラクラバ・ボーイ』 9Bロ

ジェニー・ロブソン 作
もりうち すみこ 訳
黒須 高嶺 絵 (文研出版)

赤とオレンジ色の横じまのバラクラバぼうしをかぶったトミーが転入してきました。なぜぼうしをかぶっているのか、みんなは理由を知りたいけれど、トミーをいやな気持ちにさせないで自分から話してもらおうとさくせんをねります。



『ひと粒のチョコレートに』 5リョウリ

佐藤 清隆 文

junaida 絵

(福音館書店)

「おかし^{おウ}の王さま」ともいわれているチョコレートは作るのがとてもたいへんです。ざいりょうには暑^{あつ}い国で育^{そだ}つカカオの実^みがひつようです。あまくておいしいチョコレートはどのように作^{つく}られ、たん生^{じョウ}したのでしょうか。



『ヤナギ通りのおばけやしき』 9Bス

ルイス・スロボドキン 作

小宮 由 訳

(瑞雲舎)

ハロウィンの夜^{よる}、子どもたちはだれも住^すんでいないはずの家^{いえ}に明^あかりがついているのに気づきました。チャイムを鳴^ならし、出^でてきたおじいさんに「いたずらか、おかし^{おウ}か!」と言うと、なんとおじいさんの方^{ほう}がいたずらをく^いれると言うのです。



『ゆうすげ村の紙すき屋さん』 9Aモ

茂市 久美子 作

門田 律子 絵

(講談社)

昔^{むかし}、ゆうすげ村^{むら}の山中^{さんちゅう}でつくられていた「やまが和紙^{わし}」を知^しったかえでさんは、紙^{かみ}すき屋^やさんをはじめます。和紙^{わし}をもとめて、ちょつとふしぎなお客^{きやく}さんがや^やってきます。山のきせつがうつりかわる様子^{ようす}も楽^{たの}しんでください。



『魔女がやってきた!』

9Bマ

マーガレット・マーヒー 作

尾崎 愛子 訳

はた こうしろう 絵

(徳間書店)

おいしいケーキを食^たべるためにうそをついたり、まほうをつかったりするくいしんぼうなまじょや、顔^{かお}のニキビをなおすために病院^{びょういん}に来^くるみえっぱりなまじょなど、いろいろなまじょが登場^{とうじょう}する5つの短^{みじ}い物語^{ものがたり}です。



『アオナギの巣立つ森では』 9Aニ

にしがき ようこ 作

(小峰書店)

森^{もり}でオオタカのヒナを見^みつけたあおばと榎^え。ヒナに「アオナギ」と名^な付け、成^{せい}長^{ちやう}を見守^{まも}ろうとしますが、ヒナをねらったみつりよう者が森^{もり}にや^やってきます。それぞれなやみをかかえながらもアオナギを守るために行^{こう}動^{どう}を起^{おこ}します。



『アリスとふたりのおかしな冒険』 9Bフ

ナターシャ・ファラント 作

ないとう ふみこ 訳

佐竹 美保 絵

(徳間書店)

アリスは寄^き宿^{しゆく}学^{がく}校^{こう}に行^いき、ク^くラ^らス^すメ^めイトの二^{ふた}人^{たり}と仲^な良^よくな^なります。父^{ちち}親^{おや}とれんらくを取^とろうとけいたい電^{でん}話^わの電^{でん}波^ぱを拾^{ひろ}うた^ために立^たち入^いり禁^{きん}止^しのとうに登^{のぼ}りますが、失^{しつ}敗^{ぱい}してしま^{しま}います。そこへ父^{ちち}親^{おや}から手^て紙^{がみ}がとどき、ぼ^ぼう^う険^{けん}が始^{はじ}まります。



『かげふみ』

9 Aク

朽木 祥 作

網中 いづる 挿画

(光村図書出版)

夏休みを^{なつやす}広島^{ひろしま}の祖母^{そぼ}の家^{いえ}で過^すごす拓海^{たくみ}は、雨^{あめ}の日に図書室^{としよしつ}で「かげを見つ^みける話^{はなし}」をさがす女^{おんな}の子^こに出会^{であ}います。この出会^{であ}いをきっかけに、広島^{ひろしま}に今^{いま}もなお残^{のこ}る切^きない記^きお^きくをたどり、原^{げん}ばくが落^おちた朝^{あさ}に思^{おも}いをはせる物^{もの}がたり^{がたり}です。



『こちら、沖縄美ら海水族館動物健康管理室。』 4サカナ/4ドウブツ

岩貞 るみこ 文

サタケ シュンスケ イラスト

(講談社)

沖縄美ら海水族館^{おきなわちゅ うみすいぞくかん}には動物^{どうぶつ}たち^{けんこう}の健康^{まも}を守^{まも}る「動物^{どうぶつ}健康^{けんこう}管理^{かんり}室^{しつ}」がありま^{はたら}す。そこで働^{はたら}くじゅ^いう医師^{いし}や飼育員^{しよくいん}の人^{ひと}たち^{どうぶつ}は、動物^{どうぶつ}たち^{けんこう}のため^{けんさ}に検^{けん}査^さや治^ちりよう^{ほうほう}の方法^みの見^み直^{なお}しや人^{じん}工^{こう}おび^{かい}れの開^{かい}発^{はつ}など多^{おほ}くの工^く夫^{ふう}とち^{せん}ょう戦^{せん}をつづ^{つづ}けます。



『このすばらしきスナグの国』 9 Bコ

E. A. ワイク＝スミス 原作

ヴェロニカ・コッサンテリ 作

野口 絵美 訳

小沢 さかえ 絵

(徳間書店)

身^みよりのない子^こども^{いえ}の家^{いえ}でくら^すすフローラとピップは、スナグ^{スナグ}という小^{ちい}さな人^{ひと}びと^{せかい}との世界^{せかい}に迷^{まよ}いこ^{とも}みます。友^{とも}達の^{だち}ゴルボ^{あん}に案内^{あんない}してもらい、元^{もと}の世界^{せかい}に帰^{かえ}ろうとしますが、おそろしい女^{おんな}や大男^{おおおとこ}がふたりをねらっていました。



『しかばねの物語』

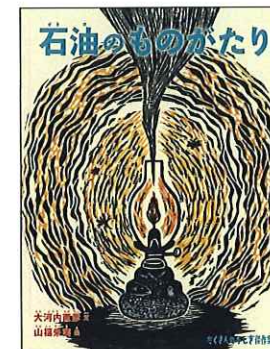
9 ミンワ

星 泉 編訳

蔵西 絵

(のら書店)

たから物^{もの}のしかばね^{しかばね}をせお^{おとこ}った男^むは、無^む言^{ごん}で歩^{ある}いて帰^{かえ}らなければなりませ^なせん。でも、しかばね^{しかばね}の語^{かた}る話^{はなし}につい口^{くち}をすべ^{すべ}らせてしま^{しま}います。人^{ひと}の言^{こと}葉^{はなし}を話^{はな}す動^{どう}物^{ぶつ}やまじ^{まじ}ょが^で出^でてく^くる12のふし^{ふし}ぎなチベ^{ちべ}ットの昔^{むかし}話^{はなし}集^{しゅう}です。



『石油のものがたり』 3サンギョウ/4チユウ/Eチジ

大河内 直彦 文

山福 朱実 絵

(福音館書店)

みなさん^{みなさん}は石油^{せきゆ}がど^どのよう^{よう}にして生^うまれ^まれたか知^しっていますか？石油^{せきゆ}のなり^{なり}たちと、それによ^よって便^{べん}利^りにな^なったわ^わたし^した^たち^ちのく^くらし、そ^そして使^{つか}い続^{つづ}けるこ^ことで起^おこ^こりう^うる課^か題^{だい}を、ダ^ダイナミ^いックな版^{はん}画^がと^ともに伝^{つた}えてく^くれる科^か学^{がく}え^えほん^{ほん}絵^え本^{ほん}です。



『とどけ! ボール つながれ!』

ぼくらの言葉』

7 スポーツ

村上 晃一 著

(あかね書房)

生^うまれ^まれつ^つき耳^{みみ}がほ^ほんど聞^きこえ^えない大^{おお}塚^{つか}さん^{さん}は、耳^{みみ}の聞^きこえ^える人^{ひと}と^と同^{おな}じチ^ちー^いム^むでラ^らグ^ぐビー^{ビー}をや^やり、デ^にフ^{ほん}ラ^だグ^いビー^{ひょう}の日^に本^{ほん}代^{だい}表^{ひょう}にな^なりま^ました。ラ^らグ^ぐビー^{ビー}は声^{こえ}をた^たよ^うり^うに動^{うご}くス^すポ^ぽー^うツ^とです。大^{おお}塚^{つか}さん^{さん}はど^どのよう^{よう}に^の乗^のりこ^こえ^えてきた^{きた}の^のでし^しょう^う。



『ひと箱本屋とひみつの友だち』 9Aア

赤羽 じゅんこ 作
はらぐち あつこ 絵 (さ・え・ら書房)

朱莉は、同世代の女の子・理々亜が手作りした本を読み、心をうばわれます。友だちになりたいくて会ってみると、理々亜は車いすユーザーでした。友情と同情のさかいになやみながら、朱莉は理々亜の気持ちに向き合います。



『ラッキーボトル号の冒険』 9Bウ

クリス・ウォーメル 作
柳井 薫 訳 (徳間書店)

あらしにまきこまれて見知らぬ島にひょう着した少年ジャックは、島に住む大男のロビンソンと出会います。助けを求める手紙を書いたり、たからさがしをしたりして過ごしていたふたりは、ある日ミイラと不思議な本を発見します。



『わたしに続く道』 9Aヤ

山本 悦子 作
佐藤 真紀子 絵 (金の星社)

ケニア人の父をもつ少女リイマは50メートル走で学年1番の記録を出しました。しかし周囲に外国人としてみられることから自分は「日本人」だという確信がゆらぎます。自分のルーツを求め父のふるさとへ旅立ちます。

区立図書館

区立図書館	住 所	電 話 番 号
真砂中央図書館	本郷 4-8-15	3815-6801
本郷図書館	千駄木 3-2-6 (汐見地域センター内)	3828-2070
小石川図書館	小石川 5-9-20	3814-6745
本駒込図書館	本駒込 4-35-15	3828-4117
水道端図書館	水道 2-16-14	3945-1621
目白台図書館	関口 3-17-9	3943-5641
千石図書館	千石 1-25-3	3946-7748
湯島図書館	本郷 3-10-18 (湯島総合センター 4 階)	3814-9242
根津図書室	根津 2-20-7 (不忍通りふれあい館 2 階)	3824-2608
大塚公園みどりの図書室	大塚 4-49-2 (大塚公園内)	3945-0734



文京区立図書館ホームページ
<https://www.lib.city.bunkyo.tokyo.jp>

よんでみましょう 2025

2025. 7. 1 初版
文京区立図書館

印刷物番号 L0625009